

袋 高 通 信

あいのだより

'22 7月号

令和4年7月20日発行

通巻第185号

静岡県立袋井高等学校

PTA会長のこぼれ

PTA会長 上田 浩司

この度、令和4年度PTA会長を拝命致しました上田と申します。

皆様には、平素よりPTA活動にご理解ご協力を賜り、感謝しております。この1年、保護者と先生との懸け橋になれるよう、活動していきたいと考えています。

PTA会長になると、講演会に参加することがあります。その講演会で、とても勉強になった話を伝えたいと思います。皆様は「ホウレン草の御浸し」をご存じでしょうか。料理のことではなく、最近、教育で注目されている魔法の言葉です。ホウレンソウは、報告・連絡・相談なので聞いたことがあるかもしれませんが、オヒタシにおける4つの声掛けが目から鱗でした。

オ（怒らない）。これはとても難しいことです。しかし、「勉強しなさい」と言われて「そりゃ、親の言う通りだ！さあ、勉強やるぞー」と言った子供を見たことがあります。だいたいは「今からやる」と思ったのに、ヤル気がなく

なった。「と言われるのが目に見えています。そこで、怒らない為には自己肯定感という考えが必要だそうです。簡単に言うと、相手を認めることです。まずは怒りを抑え、「そうだね。友達とのLINEも大事だからね。」というように声を掛ける。そして、「じゃあ、何時からやるかね？」と子供に選択肢を与える。全てがこんな簡単に行くとは思いませんが、選択肢を与える姿勢は部下に対しても使える流れだと感じました。

ヒ（否定しない）。会社でも「そうじゃなくて！」と口を挟んでくる「ワモテ上司が存在します…それは「私の価値観が全て正しい。あなたの価値観なんて関係ない。言っこと聞けよ！」という思いが根底にあるそうです。また、多様性が求められるなか、「普通は…」という言葉は禁句だそうです。世の中には様々な価値観が溢れています。アフターコロナという流れを見ても、数年前とは「普通」が大きく変化しています。まずは相手の価値観を認め、否定しないことが大事というのには心に染みました。

タ（助ける）。簡単に手を差し伸べるのではなく、本当に困ったら助けるという姿勢です。興味深いのは「小松菜で助ける」という言葉もあるようです。「こ

ま」だったら、「こ」かえる人（できる人）に「な」げる（協力を要請する）。1人で悩みを抱えない為にも、このような姿勢も大切だと感じました。

シ（指示する）。「しっかりと・確実に・なきこと・このへん・だいたい」などの曖昧表現ではなく、具体的に数字で示すことです。「取り敢えず今日中にやっとして」と指示？している自分は大反省です。これでは相手に伝わりません。今日中ではなく、「17時まで」というように指示したいと痛感しました。

オヒタシはとても勉強になった言葉でした。是非、皆様も参考にしていただきたいと思います。

結びとなりますが、今後、PTA役員が一丸となって本活動を盛り立てて参りますことと皆様のご理解とご協力を重ねてお願い申し上げます、就任の挨拶とさせていただきます。1年間、どうぞよろしくお願い致します。



一年だより

学びにより

「世界」を広げる

1 学年主任 藤井 元喜

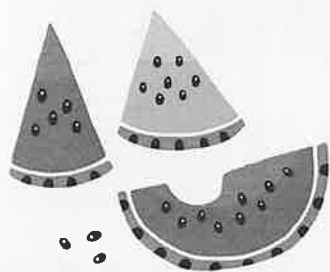
一年生が履修している科目の一つに物理基礎があります。私は物理基礎を学習できる生徒たちを非常にうれしく思っています。いわゆる「文型」の私は高校時代に物理の授業を受けたことはありません。早めに授業に行くと前時の板書を目にする必要がありますが、物理の授業後の黒板には見慣れない記号や図、グラフが書かれています。

さて、私は高校時代、世界史が大好きでした。先生が語る見たこともない土地、時代に起きた出来事が壮大な物語のようで、毎回わくわくしながら授業を受けた記憶があります。ある日の授業のことですが、突然、授業で学んでいる遠い時代の出来事が私たちの生きる現在を形作っていることに気がつきました。海外の観光地、紛争、地名、習慣。それまで何気なく目にし、耳にしていた物事が全く違ったもののように見え始めました。学びによって私の世界が広がった瞬間でした。(その後私は英語教員を目指し教育学部に進学しましたが、英文学の講義でチャイナの『カンタベリー物語』を読む

と聞いた時にはシビれました。)

私が一年生をうれしく思っているのは、高校時代に前述の経験をしたからです。物理基礎の授業を通して、生徒たちにとってどのような視点が生まれ、世界の見え方にどのような変容が起きるのだろうか。そして、世界がどのように広がっていくのだろうか。そう考えると、生徒たちがうれしく思っていたがたがありません。

現在、類型選択について御家庭で話し合われていると思います。お子様の興味関心、進路希望、適性といった様々な観点がありますが、お子様とよく話し合ってください、納得したうえで選択をお願いいたします。どちらを選択されたとしても、「文型だから」「理型だから」という枠に縛られず、多方面に知的好奇心を持ち学び続けることが大切だと強く感じています。学びによって私たちの「世界」は広がります。



二年だより

進路を考える

2 学年主任 大石 真理

つい先日、音楽大学への入学者が激減している、という記事を読みました。もちろん、大学側の運営にも課題は多くあるうと思われませんが、最大の要因は、音楽では食っていけないと思われているからでしょう。音楽だけで生計を立てられるのは、ごく一部の、才能に恵まれた人だけだから、と。職業に直結する学部を選択する人が増え、音楽を学ぶ人が減る。

それでも、音楽の需要は衰えませんが、さまざまに形態を変えながら、大きな利益を生み出しています。あるJ-POPを扱う番組では、音楽の構成、旋律の在り方、楽器の使い方などマニアックな話題が豊富ですし、クラシック音楽がJ-POPに与えている影響などを紹介する番組もあります。商業的な地盤はあるのに、学生の減少は不思議です。

ここで申し上げたいのは、「職業に役立つことを学ぶ」という点にこだわらずに本質を見誤らないようにしていただきたいということです。たとえば文学部国文学科を卒業した人がみんな国語の先生になるわけ

ではありませんし、ましてや小説家になるわけではありません。工学部を卒業した人がみんなメーカーに就職するわけではないのです。

本年度、2学年を中心に、「研究室訪問@S-I-S-T(アット・シスト)」と称し、袋井市の御協力のもと、年6回、静岡理工科大学の研究室を生徒が訪問する機会を設けました。また、静岡文化芸術大学への本校独自の見学会も企画しています。進路検討のための資料も配布しています。「学部」「学科」というのは、多種多様な研究を便宜上分類したものであり、単にその名称だけではどのような研究や学びがあるのかはわかりません。単なる印象で役に立つ立たないを判断するのはなく、その学問が世の中どのようななかかわりがあるのか、しっかり調べ、確認していただきたい。学問において、世の中と関わらない学問はあろうはずがありません。

大学訪問の機会や資料を有効に利用して、生徒のみなさんが志望校を検討することができるよう、生徒の皆さんには語り掛けていきたいと思えます。



三年だより

「TEAM F」

可能性は無限大

3学年主任 杉浦 伸幸

体育の授業では、熱中症予防のために「脱マスク」が始まっています。1学期では、遠足（ナガシマ・スパイランド）、茶摘み実習、リーダー研修会、緑風祭と全ての行事を制限はありませんでしたが実施することができました。

緑風祭では、初めてのホームルーム展となりましたが、優勝した37HR「カケグレイ」を筆頭に、どのクラスも発想が豊かで独創的な内容が多く大盛況となりました。また、文化部揭示の部優勝の美術部、ステージ公演の部優勝のダンス部を中心に、躍動感の溢れる人の心を動かす作品が多くあり感動しました。

部活動では、目標に向けて真摯に努力する生徒の姿があり、どの部活も成果を出しました。特に、今年度は全国大会に出場した部活動が2つありました。

①吹奏楽部では、第20回ジュニア打楽器アンサンブルコンクール全国大会で優秀賞を受賞しました。

②陸上競技部では、31HRの銭田瑞生さんが男子100m（東海大会第3位）200m（東海大会優勝）、

25HRの大石健人さんが男子やり投（東海第5位）で全国インターハイ（徳島県開催）出場権を獲得しました。

「TEAM F」を掲げてスタートした学年ですが、様々な分野で生徒が活躍しています。ぜひ、これからは進路実現という同じ目標に向かい、それぞれの得意分野や特性、能力を共有して「TEAM F」全員で受験という鉛筆を武器とした喧嘩に勝ち、第一志望校合格を勝ち取って下さい。

これから夏休みⅡとまって時間が取れる最終チャンス。1日は24時間。どうしても必要な時間（睡眠、食事など）以外が学習時間です。1日10時間学習が受験生の標準です。2学期が始まれば学校の時間で終わります。誰もが平等に与えられている「時間」を大切にして下さい。

当然、効果的な「時間」の有効活用が大事です。そのために「計画」をより具体化して、習慣化して下さい。しかも、「自分ができること」が大切です。「朝8時から〇〇やる。〇〇のテキストを徹底的に。〇〇を学習場所と決める。」など。加えて、夏休みは、苦手克服（原因や分析）の最終期間です。

「TEAM F」すべての生徒が充実した夏休みを過ごし、先の目標を達成することを望みます。

ご家庭のご協力をお願いします。

教務課より

教務課

コロナ下での学校生活も三年目に突入し、1学期は感染拡大防止のため、一部の部活動が活動自粛になったり、一部のクラスが学級閉鎖になったりしました。それでも、生徒の学びを止めないようにするために、授業をオンライン配信できたことは大きな進歩です。なかなか収まる気配がありませんが、今後も感染状況を見極めながら、柔軟な対応をしていきたいと考えています。

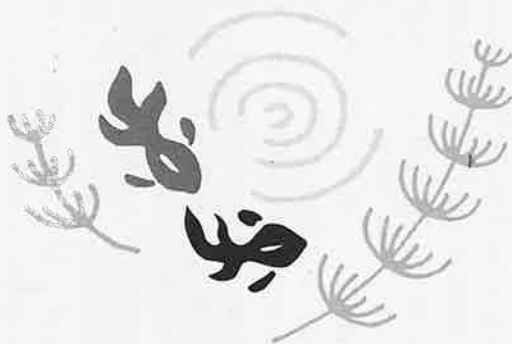
さて、1学期の成績が確定しました。二・三年生はこれまでどおり、十段階で示されていますが、一年生については、新学習指導要領の実施に基づいて五段階評定となります。また、観点別学習状況の評価が、ABCの三段階で通知票にも記載されます。「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の三観点について、（通知票にはこの順番で記載されます。）「十分満足できる」状況と判断される場合がA、「おおむね満足できる」状況と判断される場合がB、「努力を要する」状況と判断される場合がCとなります。各科目の観点別学習状況の評価を確認し、

今後の学習の改善に役立ててもらいたいと思います。

また、夏休みには三者面談を予定しています。学校や御家庭での様子など情報交換をさせていただくとともに、学校への御意見・御質問等ございましたら、担任までお寄せください。三年生は進路実現に向けて、一・二年生は、来年度に向けた類型選択・科目選択について考える大切な場となります。将来について親子で話し合う良い機会にしてくださいと思います。

2学期の始業式は、八月三日です。全員揃って、元気に2学期をスタートできるよう期待しています。

（教務課長 西尾 奈緒美）



静岡大学 (グローバル共創科学部) 進路課

静岡大学に新学部が誕生する予定です。既存の6学部(人文社会科学、教育、理、工、農、情報)の教育成果を融合するとともに、地域創造学環を発展的に取り込みながら、新たな人材育成を目指しています。学生定員は115名、令和5年4月設置に向けて只今申請中です。

1 学科3コース制で、コース配属は3年次からの予定です。

①国際地域創造学コース

社会学・文化人類学・法学・芸術文化・建築学などを基礎に幅広く学ぶコースです。グローバルとローカルを通底する課題を考察し、解決を構想する思考力を養うとともに、幅広いコミュニケーション・スキルを習得することが出来ます。卒業後は、一般企業の企画・営業職、地域社会の福祉・教育団体、行政職員を目指します。

②生命圏循環共生学コース

物理学・化学・生物学・法学・経済学・社会学を中心とした基礎を幅広く学ぶコースです。エネルギーや食糧、生物材料、社会インフラ、生態系等の循環・再生について、最先端の技術や社会の仕組みを理解し、地球と人間社会が共生するための課題設定および課題解決能力を養います。

卒業後は、グリーンエコノミー(環境にやさしい経済)に精通する企業や、環境工学のエンジニアや技術開発者、防災対策の環境・建設コンサルタントや自治体・官庁職員を目指します。

③総合人間科学コース

スポーツ科学・心理学・法・倫理など、ウェル・ビーイング(心身と社会的な健康)に関わる学問を、専門的・包括的に学び、人・自然との共生をマネジメントできる実践力を育成します。卒業後はスポーツ団体職員・指導者・メディア産業等でのスポーツや健康づくりの専門職や、社会サービスの創出に関わるインフラ・交通・企業、安心・安全なコミュニケーションのデザインに関する自治体・企業・団体職員を目指します。全国的に文理融合学部が徐々に広がっています。背景には、グローバルな気候変動問題や地方創生・地域活性化、環境、エネルギー、人口、ウェルネス(心身ともに良好な状態)、生命経済、防災における課題の複雑化があります。共創とは「異なる観点や学問的な知見の融合を図り、ともに構想し、連携して新たなものを創造すること。静岡大学の新学部も課題構想力や国際コミュニケーション力を育て、共創的課題解決力」の獲得をめざす学部です。興味関心のある生徒は、選択肢の一つに入れてみてください。

(設置申請中ですので、紹介した内容は、今後変更の可能性あります)

(進路課長 原田 卓彦)

1学期を振り返って 生徒課

今、現在も新型コロナウイルスの不安を抱えながら生活をしている状態です。また、これからも新しい生活様式を取り入れながら、注意を払って過ごしていくこととなるでしょう。この状況の中でも、ただ待つのではなく、生徒は自ら何が出来るのかを考え、動き出すことを願っています。

さて、そういった1学期も終わり、長期の夏季休業に入ります。1学期を振り返ってみて、どういいう学期になっているでしょうか。

学校行事の柱である「緑風祭」は、生徒会執行部を中心に、新型コロナウイルスに対応し、三密を避ける工夫を講じ、一般公開は断念しましたが三年生の保護者のみを入場という形で開催を実施することが出来ました。今年度は「晴春」をテーマに、制限をされた中でも生徒がそれぞれの立場で新しい企画や展示内容を考え、積極的に参加し、充実した時間を共有できたのではないかと思います。三年生は、毎年この「緑風祭」を境に、受験モードに突入していきます。その様子を下級生もよく見ておいてほしいと思います。

また頭髪・服装に関しては、ほとんどの生徒は大きな問題もなく、袋井

高生としての品位を保っており、2学期もこの状態を保って欲しいと思います。一方、自転車の乗り方については、携帯電話を使用しながらや、音楽を聞きながらの運転、並進や一時不停止といった違反行為が見られるなど、交通安全マナーの改善がなされていないことは本校の大きな課題になっていきます。交通事故の報告も数件ありました。幸い、命に関わるような大きな事故ではありませんでしたが、一つ間違えれば大きな事故に繋がりがかねないものもありました。御家庭においても「命の大切さ」の観点から、交通安全教育を行っていただきたいと思えます。まだまだ、校外での生活には不安はあるものの、学校における学習や部活動、また、生徒会活動では生徒たちに健全性を感じます。現状に満足せず、袋井高校生としてのプライドをもって生活してもらいたいと思えます。

終業式には、「夏季休業中の諸注意」が配布されますので、よく読んで長期にわたる生活を充実した期間にしてください。

(生徒課長 榎原 英裕)

